エトキ簡単 箱組も

トリミング何度でも

写真説明 面倒な設定不要

写真を拡大・縮小しつつ、使う部分を決めるトリミング。画像の一部を隠したり、あるいは特に強調したい部分だけを表示する。集合写真から1人の顔写真を抜き出すこともある。

本ソフトのトリミングは元の画像に影響を与えない。何度でもやり直せる。大きく使う予定だった写真を、途中から小さいサイズにしたり、その逆も可能だ。

トリミングはマウスのドラッグだけで直感的に行え、キー操作だけでも可能。大きくはマウスで、細かな調整はキー操作、と使い分けると楽だ。

新聞形式の写真説明も、細かな設定は不要。説明文を入力するだけだ。上下左右の位置もボタンクリックだけで切り替えられる。

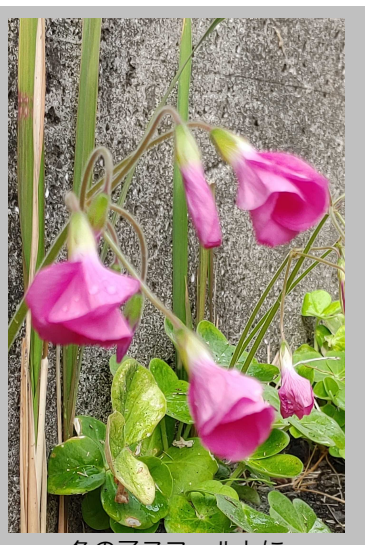
説明文は記事と同様の文字修飾が可能。ルビ（振り仮名）や一部のゴシック・明朝化、さらに署名部分の末尾揃えなど一通りの修飾が出来る。ルビを付加した場合、説明文領域は必要に応じて自動的に拡大する。

同時に、簡単な画像や説明文への色付けも。全体を罫巻き風にしたり、説明部分を色付けできる。

段の途中で記事と当たる「食い込み」の場合、適切に余白も設定できる。

画像の加工機能はないが、編集画面から好みのグラフィックソフトを呼び出せ、編集結果は即座に反映される。

冬のアスファルトにひっそりと咲く花



冬のアスファルトに
ひっそりと咲く花

まったく同じ写真を使った2つの画像。サイズの大きな左側より、花部分をトリミングした右の小さな方が目立つ。なお、全体の大きさ変更に伴い、写真説明文は自動で2行に増えている。

全素材から文字検索

複数紙面対象も可能

ワープロやエディタと異なり、複数の文章が別個に存在する新聞紙面。専用の記事編集画面では個々の記事について、普通のエディタ等と同様に文字列の検索・置換が行えるが、紙面全ての記事等を対象に一気に文字検索する機能も備えている。

記事だけでなく、見出しの文言や写真説明文も検索対象に含められる。つまり紙面内の「全ての文字」が検索可能。箱組内まで検索するかどうかも選べる。もちろん、記事だけとか、写真説明文だけを対象にも出来る。

例えば
▽「コンピュータ」と「コンピューター」が混在している場合などの用語の統一
▽間違えやすい人名や地名などのチェック
などに役立つ。

検索結果は一覧表示だけでなく、紙面上でもハイライト表示され、どこに文字が存在するか直感的に把握可能になっている。

現在編集中の紙面だけでなく、指定フォルダ内のすべての紙面ファイルからの全文検索も可能だ。それぞれの紙面に、指定文字列がいくつあるか、一覧表示される。フォルダ配下のフォルダを含むことも除外することも出来る。

さらに全文検索では〈ruby〉や〈tate〉といったタグ文字列を検索対象に含むかどうかまで選択可能。このため、たとえばルビを振った文字列だけを探し出すことも可能だ。

紙面内の全素材から「新聞」を検索した結果。個々の文字は赤で強調され、対象素材ひとつずつをハイライト表示できる

部分ぼかしで紙面を画像化

作成した紙面は印刷したりPDF化するだけでなく、JPEGなどの画像として保存できる。新聞をネットのサイトに公開する時などに役立つ。

個人情報等を配慮して、一部をぼかして画像化する機能も付いている。例えば、記事部分は隠したり、あるいは画像だけはぼかすなどの処理も可能。ぼかしの強度はプレビューを見ながら調整できる。

無制限「やり直し」

アンドゥ・リドゥ 主要画面で実現

素材の配置や削除などあらゆるレイアウト操作では無制限のアンドゥ・リドゥができる。ちょっとした操作ミスをやり直したり、さらにはやり直しすぎたのを元に戻せる。

アンドゥ・リドゥはメーン画面だけではない。記事・見出し・画像、さらにソンプルの作成編集でも可能だ。

記事編集画面では、一文字ごとの追加や削除など変更のたびにアンドゥ情報が蓄積される。見出しの場合は、文言はもちろん、背景や文字修飾もやり直し可能。特に文字と背景の詳細設定中は、細かな設定ごとに元に戻せる。また画像の場合、トリミングはもちろん、説明文の編集も対象。

なお、メーン画面から記事・見出し・画像を作成・編集すると、メーン画面上のアンドゥ・リドゥ情報はクリアされる。これにより、記事や写真説明の文字修正を知らぬ間に元に戻すなどのミスは防げる。

素材編集でも、罫線の線種変更など、右クリックメニューから行う操作は、アンドゥ・リドゥ可能となっている。

罫巻き・文字組変更・自由段間…

背景や文字色の変更も

多彩な「型」から選択

紙面のアクセントになったり、凝った紙面作りに役立つ箱組。段間のサイズを変更できるなど、通常の紙面より柔軟な指定が出来る分、設定は少し難しい。ただし、作成の際には、見出しと同様に、大きさに応じた一般的なパターンを列挙。事前に大体の形をイメージできていれば、面倒な設定作業を省略できる。

段間は、1段目の上と、最下段の下にも作れる。

紙面の記事は基本的に、共通のフォントを使うが、箱組だけフォントやサイズを変えられる。

またいったん作成した箱組の設定変更画面は、紙面設定と全く同一。覚えた設定方法を活用できる。

この箱組でも指定しているように、箱組を囲む罫線も、上下左右の方向はもちろん、一部をカット可能。他の素材と重ねた際に線が被らないようにも出来る。また、一部を領域からはみ出す指定もOK。この新聞の4面にあるように、罫線とくっつけて紙面に一体感や迫力を増す効果を生む。

紙面とは別に、箱組そのものへの色付けや文字色の設定が可能。例えば、黒ベタ背景に白抜き文字にすれば、小さくてもインパクトのある箱組になる。

箱組の編集作業は紙面とほぼ同一。特別に覚える操作はない。

箱組内の素材は、紙面と同様に作れるが、作成時に既にある記事や画像を同時に取り込める。作成後に親紙面から持ってくることも当然可能だ。

CC BY ND
このＰＤＦはＣＣライセンスで配布され、営利・非営利を問わず自由に利用できます。改変は不可です。

覚えておきたい 新聞・編集用語

箱組　紙面に変化与える

紙面の中で、枠線などで四角に区切って記事等をひとまとめにする組み方。「ボックス組」などとも言う。ワープロの「テキストボックス」に少し似ているが中に見出しや画像が入れられるのが特徴。

単調になりがちな紙面に変化を付ける効果もある。一風変わった話題や連載等で使われることが多い。一般紙一面の名物コラムはたいてい箱組だ。縦組紙面に横組の箱を組み合わせたりもする。一方で、一番目立つトップ記事を箱組にする手法もある。

また紙面を複数の箱組だけで構成したり、紙面全体を箱組にするケースもある。

単位「倍」　記事本文との比率

見出しで使う大きさの単位。紙面の記事部分の文字サイズとの比率を表す。紙面記事が9ptなら1倍は9pt、2倍は18pt。

文字サイズが異なる紙面でも、1段の文字組が一緒なら、「3段の見出しは○倍の○文字」と覚えておけば、同じ効果が得られる利点がある。小さな見出しは2倍、通常は3倍、トップに使うなら4倍、といった具合。

一般に、見出しの文字サイズは1.5倍以上、記事本文文字が扁平の場合は2倍以上を使えば、紙面に埋没しない。

他の単位を使いたい場合は、見出し作成・編集画面で、メニュー→［仕様単位と刻みの変更］で設定できる。一般的なポイント（Pt）なども使える。新聞業界で使われる「倍」（1000分の11インチ＝2.2352ミリ）とは別物で、こちらは本ソフトでは「正倍」と呼ぶ。

ノンブル　欄外に新聞名や頁

紙面の欄外上部に置かれる。新聞名や日付などを記載された部分。ワープロで言うヘッダーに近い。一般紙の場合は版名（7版、13版など）やページ種別（社会、スポーツなど）、さらに第三種郵便物認可を記載している。

4頁建て以上の新聞の場合、ページ番号は奇数ページなら左端、偶数ページは右端に置くのが通例。見開きで見た場合、両端でページ番号が分かるようにする。

ノンブルは専用画面でプレビューを見ながら簡単に設定できる。文字列のサイズや修飾設定は、見出しと共通。扁平や地紋設定も当然できる。

他素材と同様に雛形として保存できるので、いったん作ってしまえば、他の紙面から呼び出して、日付やページ数を変えるだけでよい。なお紙面全体を雛形化した場合、当然ノンブルも雛形化される。